第５７回黒部川土砂管理協議会

●開催要件

〇開催日時　令和７年２月１７日（月）　１３：３０～１５：００

〇会　　場　入善まちなか交流施設　うるおい館　2Fイベントホール

〇出 席 者

・武隈 義一　黒部市長
・笹島 春人　入善町長
・笹原 靖直　朝日町長
・島光 芳典 富山森林管理署総括治山技術官
・木村　勲　北陸地方整備局河川部長（座長）
・山下 大樹　富山県農林水産部次長
・川上　孝裕 富山県土木部次長
・須谷 浩史　関西電力㈱北陸支社長
・中島 浩薫　富山県生活環境文化部参事

事務局　北陸地方整備局河川部、関西電力㈱再生可能エネルギー事業本部

●議　事

報告事項

（１）第６１回黒部川ダム排砂評価委員会の評価及び令和６年度連携排砂および連携通砂の実施結果ならびに環境調査結果等について

（２）令和６年度連携排砂等の実施結果に関する関係団体からの意見と対応について

座長挨拶

座　長

本日は、委員の皆様におかれましては、年度末のお忙しい中、協議会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

また、日頃から国土交通行政、とりわけ河川行政の推進にご理解とご協力を賜っておりますこと、この場をお借りしまして、厚く御礼を申し上げます。

昨年度（令和5年度）の夏は、黒部川におきましても渇水に備え、５年ぶりに渇水情報連絡会の幹事会を開催しました。関係機関の皆様におかれましては、渇水に関する情報共有をさせていただき、対応に当たっていただきました。関係機関の皆様のご尽力に改めて感謝を申し上げます。

近年、気候変動の影響によりまして、洪水はもとより、渇水の発生も懸念されるところでございます。引き続き、皆様方のご協力をどうぞよろしくお願いを申し上げます。

さて、本日の協議会でございますが、黒部川の出し平ダム、宇奈月ダムの円滑な排砂及び適切な黒部川流域の総合土砂管理に関しまして、関係機関との協議調整を図ることを目的として、年２回開催しているところでございます。

今回は２回目といたしまして、今年度の取組結果と環境調査等の結果につきまして報告をさせていただき、ご意見をいただきたいと思っております。

今年度は、連携排砂に加えまして、計２回の連携通砂の実施となりました。特に７月３０日から８月１日に行いました１回目の通砂におきましては、１，０００ｔを超える洪水での運用実施となりました。

例年に比べまして、規模が大きな出水で発生していたということから、令和２年度より試行しております宇奈月ダムの先行操作を基本としつつも、実際の流況に応じた柔軟な運用を実施させていただいたところでございます。

今年度の実績運用の検証結果につきましては、後ほどご説明をさせていただきたいと思っております。

本日は限られた時間ではございますが、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきますようお願いを申し上げまして、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

報告事項

（１） 第６１回黒部川ダム排砂評価委員会の評価及び令和６年度連携排砂および連携通砂の実施結果ならびに環境調査結果等について

座　長

報告事項(１)の排砂評価委員会の評価並びに６年度の連携排砂及び通砂の実施結果等、環境調査について、ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

どうぞ。

Ａ委員

別添－２－①の３５ページの海岸域における底生動物の調査結果ですが、昨年の元日の能登半島地震の影響も踏まえて調査をされているのか教えていただけませんか。

座　長

事務局からお願いいたします。

事務局

ご質問ありがとうございます。

海域の底生動物の調査結果につきましては、まず例年どおり排砂期間の前の５月、排砂期間の後の９月、この調査を例年どおり実施してございます。その評価については評価委員会でいただいたとおりではございますけれども、今ほどご質問いただいた、地震に対して今回影響があったかどうかということについて、調査自体は例年と同様なのですが、例えば調査した位置、毎年同じ位置で調査しておりますけれども、その位置の深さが変わっているか変わっていないかなどといったことも見ております。ここには出てきておりませんが、我々が見ている中では大きな変化は見られておりませんでした。

したがって、今回、海域の底生生物の調査地点は８つの地点でございますけれども、海域全体ではなく局所的な話になるかもしれませんが、地震の影響は確認されておりませんし、先ほど申し上げた確認方法で地震影響の考察を行ったものでございます。

Ａ委員

ありがとうございます。

ご存じのように入善町は海洋深層水の取水施設が２本とも壊滅的な状態になったということは、それなりに海底の状況が変わったのではないかと推測をするわけですけれども、それと連動するかどうかは別として、この黒部川の連携排砂についての海底の調査という

のはどの程度しておられるのか、どのエリアまでしておられるのかというのはお分かりでしょうか。

事務局

実施機関といたしましては、海域は、別添－２－①の１０ページ目に海域の水質調査の位置図を大きな図で載せてございます。まずはこちらをご確認いただければと思います。

深層水パイプの件においては、例えばですけれども、２４ページ目をご覧いただきたいと思います。

２４ページ目は、本日の説明の中にもありました粒径の調査結果でございますが、右下にマップがございます、その中のオレンジの北東海域（６地点）の一番沖合に小型底引網３がございます。ここが比較的調査地点の中では深層水パイプの破損があった場所と近い地点と見ておりまして、ここの調査結果が、５月と９月の調査結果、それぞれ過去の値よりも非常に大きかったということがございます。

粒径の結果ということでありますけれども、地震後の事象ということもございまして、局所的ではありますが、もしかしたら海底地滑りなどの影響がここはあったのではないかなという可能性は考えているところでございます。

Ａ委員

ありがとうございました。

どこまでを調べればいいかというのはおのずと限界があると思いますが、ある程度、黒部川の排砂に関連するようなエリアについては、やはり海底の状況というものは新たにしっかりと調査をした上で比較検討していただくことが大事ではないかなと思っておりまして、特に今後の水生生物だけではなくて、藻場造成も含めて比較検討ができるような、また、今後調査なり説明をしていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

座　長

ありがとうございます。

ほかにご意見等ございましたら、お願いいたします。

どうぞ、お願いします。

Ｂ委員

出し平ダムでは、目標排砂量１９万ｍ^{3}に対して実際の排砂量が１０万ｍ^{3}ということで、想定変動の範囲内ではあるものの排砂量が少なかった理由と、通砂後では出し平ダムの土砂の変動量が、１６万ｍ^{3}増になっていることについての要因を教えてください。

事務局

出し平ダムについての今ほどのご質問ですが、今年度は出水の規模が大きかったということが要因でございます。まず、排砂のときも１，０００ｔまではいかなくとも、比較的出水の規模が大きかったということと、出し平ダムの上流に崩壊地がございます。そこで崩壊などが起きて土砂の供給量も多かったということで、要するに排砂で出すものより上流から流れてきた土砂量のほうが多かったということでございます。本当は目標排砂量相当の１９万m^3を排砂したかったというところでございますが、それ以上に入ってくる量が多かったので、出入りで負けてしまったというところでございます。

通砂に関しては、１，０００ｔ級の珍しい出水規模でございまして、これも、土砂の供給量というのは出水の流入量の多さにも比例するところもございまして、入ってくる水の量が多ければ、その分入ってくる土砂の量も多いというところがございます。

ですので、これも理屈は同じですけれども、限られた排砂時間の中で出す量よりも入ってくる量のほうが多く、プラス１６万m^3ということが実績として、結果的にそういったことになりました。

Ｂ委員

そうしますと、来年度の目標排砂量というのは大きな数字になるんでしょうか。これはまた今度の春に測量して求めることになると思うんですが、いかがでしょうか。

事務局

来年度の目標排砂量につきましては、３月の排砂評価委員会にて方針を図るべく、今検討しているところでございまして、可能性としては、今年度たまった部分が、ある程度予想される出水に応じて排砂される可能性はあるということでございます。

Ｂ委員

分かりました。ありがとうございました。

座　長

どうぞ。お願いします。

Ａ委員

以前にもこの協議会の場でお話をしたことがあるのですが、排砂実施期間は６月から８月までの３か月間に決めて行っておられる状況でありますけれども、関係団体の皆さん方に５月の下旬、あるいは９月の上旬でもやれるような、そういう働きかけというのはされているのか、いないのか。また、そういったことが必要でないと思っておられるのか、お

聞かせいただきたいと思います。

事務局

５月や９月なども排砂が実施できないかということについては、関係団体の皆様にご意見を伺っております。どうしても、早めた場合でも遅くした場合でも漁期にかかるなど、関係団体も複数あるので、農業だけでなく漁業や内水面のご意向を踏まえる必要があります。すべての関係団体の意見を踏まえると、結果として現在の６月から８月で、引き続き排砂を実施させていただきたいと考えているところです。

Ａ委員

ダムの健全性をしっかりと確保していくということも重要ですし、また、環境面にも配慮した、地域の皆さん方に理解をしてもらうということも大事なことであります。

したがって、排砂実施機関に関してはダムの健全性が確保できるのかどうか、あるいは環境問題にしても配慮し、今後、また国の機関をはじめ関係の皆さん方でも議論していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

座　長

ご意見として、関係者との調整等、引き続きそのような観点も含めて調整してまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

どうぞ。

Ｃ委員

冒頭に黒部川の渇水の幹事会が開かれたという話もありまして、地球の気候変動によって、取水停止時間が長くなると本当に深刻な状況になると聞いておりますので、そこはどうしても農作業で必要な時期、それは農業の面から、それから漁業の面から、いろいろな多方面の意見があると思われますが、これまで以上に農業に対する影響というのは深刻度が増していると思いますので、状況の変化も踏まえて、排砂実施運用をもう少し考えてみていただければありがたいと考えております。

座　長

事務局のほうから何かございますか。

事務局

愛本堰堤からの取水停止に関しては、特に実施機関のほうで指定しているものではありませんので、取水停止時間の短縮については、例えば排砂ゲートが全閉した後、濁度が低下するので､必ずしも排砂の体制に入っているから取水を停止するというわけではなくて、

どこかの段階で取水を再開できないかということを、愛本堰堤の施設の管理者、運営者の方にご提案しているところですので、そのあたりをもう一段、排砂・通砂自体は黒部川の総合的な土砂の管理の一環ですので、下流の様々な施設の方と連携する必要があるのではないかと思っているところです。

Ｃ委員

確かにそう言われればそうなのかもしれませんが、取水を停止しないと土砂が用水路にたまってどうのこうのとか、そういう害も聞いておりますので、もう少し丁寧に関係の皆さんと意見交換していただくようお願いいたします。

座　長

意見として承りました。

事務局のほうでさらに農業関係者、さらには愛本堰堤の管理者等とも更に連携しながら、例えば試行的に取り組むなどの工夫を来年度に向け、関係者と調整を進めていただければと思います。

Ｄ委員

参考までに教えてください。今回の排砂ならびに通砂による土砂は、潮の流れもあると思うのですが、基本的には黒部川河口の右岸側、入善側の方向に流れ出ていると受け止めていいですか。

座　長

事務局、お願いいたします。

事務局

右岸側、東側のほうに流れていくということで、これは例年も同様の傾向であるということでございます。

座　長

お願いします。

Ｅ委員

質問ではなく意見なのですが、今回は連携排砂と２回の連携通砂が実施されたわけですけれども、事務局では連携排砂の運用について、２つのダムの自然流下のタイミングと流下時間を合わせるというような活用で運用されたところであります。非常に分かりやすい内容でありますので、引き続き自然に近い形での連携排砂というものにつなげていただきたいなと思っております。

加えて、資料内容を関係団体や地域の皆様にも分かりやすくお伝えする事が重要であると考えております。

座　長

一般の方も含めた広報をさらに充実というご意見かと思いますけれども、もし事務局のほうで何かコメントございましたらお願いします。

事務局

ありがとうございます。

こちらとしても、その点、非常に重要だと思っております。昨年の秋には、メディアの方に対し連携排砂とはそもそもどういうものなのか、なぜ必要なのかなど、全体像を分かっていただきたいと思いまして、宇奈月ダムの視察も含めたメディア説明会を行い、その結果を新聞でも比較的大きく取り上げていただいたりしたところです。

そのようなメディアを通じての広報や、宇奈月ダム管理所での展示など、いろいろな場でこちらも工夫して行っていきたいと思っております。

やはり黒部川の管理、崩壊地の多い黒部川の管理において、土砂の対応が非常に重要なものであるということを一般の方に理解していただくことを、引き続きこれまで以上に進めていきたいと考えております。ありがとうございます。

座　長

まさに排砂もそうですけれども、今、流域治水という形で、流域内のあらゆる関係者に参画していただいて取組を始めておりますけれども、まさにそういった原点から知っていただくというところからスタートかなと思っておりますので、その辺の観点も含めて、またしっかりとやっていくように努めていきたいなと思っております。よろしくお願いします。

ほかにございませんでしょうか。

それでは、先に進めさせていただきます。

報告事項

（２）令和６年度連携排砂等の実施結果に関する関係団体からの意見と対応について

座　長

報告事項（２）令和６年度連携排砂等の実施結果に関する関係団体からの意見と対応にについて、ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

Ａ委員

これもまた例年と同じような内容になろうかと思いますが、資料－２の４ページ目に記載がありますように、河床高の上昇については常々感じておりますし、また、地域の皆さん方からも、黒部川の河口に土砂が堆積しているが何も対策をしていないとお叱りを受けることが多々ございます。

しっかりと河床高を管理するため、河道掘削などを含めて進めていただきたいということ、あるいは樹木伐採もやってはいただいておりますが、なかなか進む速度が遅いようにも思います。樹木伐採も定期的に行っていただいている反面、下流から上流へ到達するまでの間に、また下流に木が生えてくるような状況になるのではないかなというぐらいに、少し遅いなという感覚を持っております。

特に内水面関係では、河口に堆積した土砂によってサクラマスの遡上なりサケの遡上に影響してくるというようなこともございますが、近年ではその反動で漁港内に波が入る、そのことによって船が傷むというような話も出てきているようにも感じております。

それは具体的な因果関係は分かりませんけれども、やはり河口域の土砂をしっかりと奥まで流し込んでいただくことも大事なのではないかなと思っておりまして、そういった対策をしっかりと講じていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

座　長

ご意見として賜りましたが、事務局のほうから何かコメントございますでしょうか。

事務局

ありがとうございます。

黒部川の管理の観点、これは流域全体の安全の観点で、そのあたりは流域治水の協議会のほうでも黒部河川の取組、他機関の対応を含めて議論していきたいと考えております。

また、実際に毎年測量も行っておりまして、治水上の安全の観点からきちんと確認し、必要なところで、河道掘削、樹木伐採等をしているところです。ただ、樹木伐採等につきましては、生物の生息環境にも関係するところなどもありますので、全面に切ってしまうと、またそれは別の問題を起こしてしまうので、バランスを見ながら行っていきたいと考えております。

また、それぞれの施設について、土砂生産量の多い黒部川では上流から下流域に流下する土砂量が多くなるということは正常な状態ではありますので、それぞれの施設管理者でしっかり対応していただく必要があると思っております。

以上です。

座　長

ありがとうございます。ほかにご意見いかがでしょうか。

Ｄ委員

農業団体から排砂、通砂を実施しない期間を設けてほしいとの意見について、やはり今年はそれなりに影響が出ており、今後のことを危惧しての意見なのでしょうか。地域の皆さん方からの具体な声があれば参考としてお聞かせ願いたい。

座　長

事務局のほうでお願いします。

事務局

農業団体の方からは、通砂を２回やった、通常の年とは違い回数が多かったことで少し懸念を示されたところはあったかと思います。

Ｄ委員

懸念だけで、実際に何か事象はなかったということですか。

事務局

今回、連携通砂の２回目が８月の上旬にかかったということで、ちょうど水が必要な時期だったということで、実際に危惧をされたということでございます。

実際に今回の２回目の通砂でも、一部取水を再開、継続されていたということもあり、そういった事象も実態としてはあったということでございます。

Ａ委員

関連して、１点お聞きするわけですけれども、地域の皆さん方のため黒部川の一定量の水量を確保するという約束事というのはないのですか。

事務局

農業用の取水は水利権等がございますので、その水量については確保される、渇水のとき以外は確保されるということになってございます。

Ａ委員

ということは、渇水のときは確保できなかったという判断でよろしいでしょうか。

事務局

できなかったということではなくて、そのあたりは上流の関西電力さんのダムとかもありますので、極力補給をしていただいたということでございまして、そういう状況になってございます。

Ａ委員

ありがとうございます。

できれば、関係団体から要望されてから動くのではなくて、水量が一定の量を下回ったら黒部河川事務所のほうで関西電力なりいろいろなところへ働きかけていただくということはできないものでしょうか。

事務局

河川として最低限流さないといけない水量を定めております。なかなか農業用のダムまでないところが厳しいところではありますが、この様な事も踏まえ引き続き、渇水情報連絡会のほうで議論しながら対応したいと考えております。

Ａ委員

ありがとうございます。

農業関係だけではなくて、下流にも生活している人たちがたくさんおられますので、しっかりとまた水の確保だけはぜひお願いしたいと思います。

Ｄ委員

大体の出穂時期を把握して、事前に連携、情報を共有していくということも大事なことではないかなと思っておりますので、もちろん年度によって稲穂が出る時期は違いますが、事前連携されることも姿勢としては大事なことだと思っておりますので、その点をまたぜひよろしくお願いしたいと思います。

座　長

意見として賜りました。

農業関係者との取水の時期的なものと、あとは連携排砂のタイミングと、より連携を密にしてくださいというご意見と承りましたので、事務局のほうでよろしくお願いいたします。

ほか、いかがでございましょうか。

ほか、全体を通じましても結構でございますが、ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、ご意見、ご質問がないようでしたら、議題についての取りまとめに入りたいと思います。

本日の議題につきましては、第６１回黒部川ダム排砂評価委員会の評価及び連携排砂及び連携通砂の実施結果並びに環境調査結果等についてと、さらに、令和６年度連携排砂等の実施結果に関する関係団体からの意見と対応についての２件、報告をいただいて、ご質問、ご意見をいただきました。

本日、海域の調査であったり、さらには農業関係者とのさらなる連携を深めた排砂のやり方、さらには河道内の土砂掘削等の河道管理の話、さらには一般の方も含めた広報の話と、幅広にご意見をいただいたところでございます。

今日出された意見を踏まえまして、さらには１月２２日に開催されました評価委員会での評価や意見を踏まえまして、事務局におきまして、来年度であります７年度の連携排砂及び環境調査計画の案を作成しまして､次回の協議会に提示していただきたいと思います。

また、今後検討や回答する必要が生じた内容につきましては、次回の協議会で回答していただくか、個別に対応できるものについては、事前に事務局のほうで対応をお願いしたいと思います。

以上で本日の議事を終了したいと思います。ご協力ありがとうございました。

それでは、司会に進行役をお返しいたします。

４．閉　　会

司　会

長時間にわたりましてご審議いただき、誠にありがとうございました。

次回の協議会につきましては、令和７年度の連携排砂計画の案、それから環境調査計画の案についてご審議いただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、第５７回黒部川土砂管理協議会を閉会させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。